

◆ 平成29年度活動報告シート ◆

団体名：第8回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

20A-44

代表者：実行委員長 横山完爾

URL :

1. 活動が必要とされた状況

県内の環境活動をさらに活性化させるためには、個々の活動（点）が繋がり、線になり面になるプラットフォーム的な場と役割が必要である。環境活動を行っているメンバー等が一堂に会し、情報交換など交流の場を持つことにより、活動が推進されることが期待される。さらに若者からシニアまで、世代を超えた意見交換の場から相互理解が深まる必要性を感じている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第8回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう エコの環～開催

実施時期 平成29年12月2日（土）

参加人数 493名

開催会場 獨協大学天野貞佑記念館、他

※地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とする実行委員会を組織し、企画・運営・準備を行った。フォーラム当日は講演会、7分科会を開催した。

<フォーラムの内容>

講演会 「エコツーリズム 心おどる里山の旅」

犬井正氏（獨協大学学長）

分科会 「明日からできる家庭の省エネ術」、「環境経営の今・これから」、「川の国 埼玉の実現にむけて」、「ふるさとの自然を未来に残そう」、他3分科会



3. 活動の成果

- ・独協大学と共催したため、大学側からの呼びかけにより多くの学生の参加が得られ、交流を深めることができた。
- ・参加者が今まで一番多かった。年々、盛り上がりを見せている。
- ・環境ネットワーク埼玉が事務局支援を行い、スムーズに活動を行うことができた。
- ・学生主体や企業向けの分科会も開催でき、多岐にわたる内容の分科会を開催できた。
- ・今年度は特に企業向け「環境経営」について分科会を設置することができた。（初の試み）

4. 今後に残された課題

- ・早めに準備しているにも関わらず、運営や準備、報告書の発行が遅延しがち。スケジュール通りに運営していくことが必要。
- ・継続的に議論することが必要であるため、開催場所の決定や分科会の内容等を早期に決定する必要がある。
- ・行政や企業の参加をどう促していくか。分科会の内容についても検討が必要。
- ・当日のスタッフ運営が人手不足。どう補っていくかが課題。
- ・さらなる県内の大学との連携が課題。
- ・より参加者を得るための企画やアイデア、広報等の仕掛けが必要。
- ・実行委員が固定化し比較的高齢化している。若い人の参加をどう促すか工夫が必要。